

「四国の川を考える会」

平成28年度 定期総会

平成28年7月15日

四国の川を考える会

「四国の川を考える会」平成28年度定期総会

～ 議 事 次 第 ～

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議 事

(1) 平成27年度 事業報告

(2) 平成27年度 決算報告及び監査報告

(3) 平成28年度 事業計画(案)

(4) 平成28年度 予算(案)

(5) 会則の改正(案)

(6) 役員の改選(案)

(7) その他

1) 課題への対応(案)

2) 会員の動向

5. 閉 会

6. 講 演

演題 「頻発する広域浸水災害に向けた要配慮者対策について」

徳島大学大学院 教授 中野 晋 氏

(1) 平成27年度 事業報告

1) 事業報告

① 会 議

・ 運営幹事会

開催日 平成27年4月9日(木)

場 所 四国クリエイト協会 第二会議室

議 題

- 1) 平成27年度役員会・総会等について
- 2) 平成27年度助成事業等の審査
- 3) その他

・ 役員会

開催日 平成27年 5月28日(木)

場 所 四国クリエイト協会 第一会議室

議 題

- 1) 平成27年度総会について
- 2) その他

・ 総 会

開催日 平成27年6月25日(木)

場 所 マリンパレスさぬき

議 題

- 1) 平成26年度事業報告
- 2) 平成26年度決算報告及び監査報告
- 3) 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)
- 4) 会則の一部改正
- 5) 役員の変更

講 演 「攪乱で維持される河川の希少植物」

松山東雲短期大学 名誉教授 松井 宏光 氏

② 広報誌、機関紙の発行

・ 広報誌 " あめんぼWEB版 "

発 行 : 平成27年11月

四国の特徴的な三つの整備事業の紹介と川のトピックス

・ 機関紙 " 水紋WEB版 "

情報が入りしだい掲載する形にリニューアル。

- ・ 総会報告
- ・ 助成事業
- ・ 四国堰堤ダム88箇所巡りの完走認定状況
- ・ 会員投稿

③広報事業と助成事業

区分	イベント名	河川名	場所	主催者	実施状況
広報事業	第33回ファミリーハゼ釣り大会	吉野川	名田橋～吉野川河口一帯	共催：徳島県釣連盟、四国の川を考える会	平成27年10月11日(日) 359名
助成事業	那賀川源流碑開き	那賀川	那賀川源流碑及び源流モニメント周辺	那賀川アフターフォーラム	平成27年5月10日(日) 約150名
	土器川生物公園魚類調査及び清掃	土器川	土器川生物公園	土器川生物研究会	平成27年11月7日(土) 平成28年3月19日(土) 65名/2回
	美馬市水辺の楽校春祭り	吉野川 中鳥川	美馬市中鳥	美馬市水辺の楽校春祭り実行委員会	平成27年4月19日(日) 約500名
	四万十川「水際清掃ミズスマシ作戦」	四万十川	四万十川	四万十川流域住民ネットワーク	平成27年6月28日(日) 20名 平成27年9月21日(月) 20名 平成28年1月2日(土) 10名
	さめうら湖で環になろう	吉野川	早明浦ダム湖流域	特定非営利活動法人 さめうらプロジェクト	平成27年8月30日(日) 16名
	宮本武之輔を顕彰する会への活動	—	松山市	宮本武之輔を偲び顕彰する会	平成27年4月14日(火) 15日(水) 松山市と燕市の交流イベント(約300名) 平成27年11月3日(火) 講演会(約200名) 平成28年1月9日(土) 顕彰碑・銅像清掃活動他
	江川・吉野川の環境美化・保全の未来を考えるシンポジウム	江川 吉野川	吉野川市鴨島	NPO法人江川エコフレンド	平成27年8月29日(土) 約150名
蛍湖まつり	中筋川	中筋川ダム	蛍湖まつり実行委員会	平成27年10月25日(日) 約2,400名	

④その他

【報告】四国堰堤ダム88箇所巡り完走認定について

堰堤88箇所巡りの完走認定につきましては、平成24年度の総会で承認されて以来実施してきています。

認定状況としましては、平成24年11月に第1号の完走の認定を行った後、昨年の総会時点（平成27年6月）までに31名の方を認定し、その後さらに11名の方を加え、現在時点で42名の方を認定しております。

(2) 平成27年度 決算報告及び監査報告

1) 平成27年度 決算報告

自 平成27年4月1日

至 平成28年5月31日

(省略)

2) 平成27年度 監査報告

(省略)

(3) 平成28年度 事業計画(案)

①広報事業・助成事業を実施する。(次ページの参考資料のとおり)

- ・広報事業として「吉野川ファミリーハゼ釣り大会」を行う
- ・平成28年度助成事業の選定。

②ホームページを活用し、広報誌「あめんぼ」の情報発信を行う。

③機関紙「水紋」をホームページにて公開

④四国堰堤ダム88箇所巡り完走認定

(4) 平成28年度 予算(案)

(省略)

平成28年度 助成事業応募状況

(平成27年度予備費対応事業)

	助成事業名(活動名)	新・継	応募者	実施時期	
①	那賀川源流碑開き	継続	那賀川アフターフォーラム	H28.5.8(日)	
②	第2回美馬市水辺の学校春祭り	継続	美馬市水辺の学校春祭り実行委員会	H28.5.8(日)	
③	親子ガサガサ体験教室	新規	高知県立高知青少年の家	H28.5.28(土)	

(平成28年度予算対応事業)

	助成事業名(活動名)	新・継	応募者	実施時期	
④	那賀川源流碑開き	継続	那賀川アフターフォーラム	H29.5.7(日)	
⑤	四万十川「水際清掃ミズスマシ作戦」	継続	四万十川流域住民ネットワーク	H28年度内で3回程度	
⑥	宮本武之輔を偲び顕彰する会	継続	宮本武之輔を偲び顕彰する会	例会:4,6,8,10,12,3月 清掃:H29.1 講演会:H28.11.3	
⑦	蛍湖まつり	継続	蛍湖まつり実行委員会	H28.10頃	
⑧	土器川生物公園魚類調査及び清掃	継続	土器川生物研究会	1回目(9~11月)、2回目(3月)	
⑨	朝霧ロードイルミネーション	新規	朝霧ロードイルミネーション実行委員会	H28.11.11~29.1.9	
⑩	四国ブルーツアー	新規	にほんブログ村等活用研究会	H28.7.10(日)	
⑪	防災・環境講座	新規	(一社)肱川流域の環境と治水を考える住民ネットワーク	H28.8予定	

区分	イベント名	主催	河川名	目的	内容	開催場所	参加予定人数	開催日	
広報事業	第34回ファミリーハゼ釣り大会 (継続)	共催：徳島県釣連盟、四国の川を考える会	吉野川	自然に親しみ、水に触れ、川に親しみ、関心を持っていただき、みんなで考え、川をいつまでも美しく守っていく心を持ってもらおう。	一般の部 女性・少年の部 ファミリーの部	名田橋～吉野川河口一帯	約300人～600人	平成28年10月	
助成事業	①那賀川源流碑開き (継続)	那賀川アフターフォーラム 共催：ゆきかう那賀川推進会議 協賛：那賀川河川事務所、四国クリエイティブ協会、河川基金、那賀町、阿南市、阿南商工会議所ほか	那賀川	那賀川アフターフォーラムが中心となって、平成17年10月に那賀川源流に、源流碑及び源流モニユメントの設置をした。 源流碑前にて「那賀川源流碑開き式」を開催し、流域の安全を祈願する。源流域の清掃活動、源流水質検査、上下流域の小学生児童の交流を図り、参加者に那賀川に対する環境保全、啓蒙広報活動を行う。	源流碑及び源流モニユメントのPRを通じて、源流域に関心をもってもらい、下記事業により、那賀川に対する環境保全、啓蒙広報活動を行う。 ・源流碑、源流モニユメント周辺源流域の清掃活動 ・小学生の簡易水質検査パックテストによる源流水質検査 ・上流、下流域小学生の交流促進(学校紹介、校歌の斉唱交換等) ・参加者に記念品として、源流餅を配布し、上流、下流の交流促進。	那賀川源流碑及び源流モニユメント周辺(那賀町木頭北川)	200人	平成28年5月8日(日)	
業	②第2回美馬市水辺の学校春祭り (継続)	美馬市水辺の学校春祭り実行委員会	吉野川、中島川	現在検討されている吉野川河川敷を中心とした「徳島県西部健康防災公園」(仮称)を支援するため、地元の方を中心に地域の活性化に繋げるイベントを健康と防災をテーマに開催する。また、それと共に美馬市の地域振興と観光の推進を図ることを目的とする。	地元で活動する団体等が、当日イベントを開催する。 ・パークゴルフ大会 ・三味線餅つき ・健康ウォーキング大会 ・産直市、パラソルショップ ・防災炊き出し体験 ・ロープワーク講習会 ・防災体験、防災ダンス ・消火、救急訓練 ・野鳥観察会、キッズ広場 ・フォークコンサート ・ピザ焼き体験、お茶会	美馬市水辺の楽校周辺(水辺の楽校中島川公園、防災ステーション、吉野川河川敷等)	800人	平成28年5月8日(日)	

平成28年度「四国の川を考える会」広報事業と助成事業(案) その2

(参考資料)

区分	イベント名	主催	河川名	目的	内容	開催場所	参加予定人数	開催日	
助成事業	③親子ガサガサ体験教室 (新規)	高知県立高知青少年の家	仁淀川	親子で仁淀川に棲む生き物を見つけ、見つけた生き物から分かることを話し合うことにより、日本一の水質を誇る仁淀川の環境や水質を学び、環境の保全意識を高めるとともに、川遊びの楽しさを体験する。	仁淀川中流域に棲む川虫などの生き物を、網を使って採取し、ビンゴ形式で見つけた生き物の種類を確認し、見つけた生き物から分かることを、参加者全員で話し合う。	いの町波川緑地公園	小学生20名と保護者、スタッフ約60名	平成28年5月28日(土)	
	④那賀川源流碑開き (継続)	那賀川アフターフォーラム 共催：ゆきかう那賀川推進会議 協賛：那賀川河川事務所、四国クリエイト協会、河川基金、那賀町、阿南市、阿南商工会議所ほか	那賀川	那賀川アフターフォーラムが中心となって、平成17年10月に那賀川源流に、源流碑及び源流モニユメントの設置をした。 源流碑前にて「那賀川源流碑開き式」を開催し、流域の安全を祈願する。源流域の清掃活動、源流水質検査、上下流域の小学生児童の交流を図り、参加者に那賀川に対する環境保全、啓蒙広報活動を行う。	源流碑及び源流モニユメントのPRを通じて、源流域に関心をもってもらい、下記事業により、那賀川に対する環境保全、啓蒙広報活動を行う。 ・源流碑、源流モニユメント周辺源流域の清掃活動 ・小学生の簡易水質検査バックテストによる源流水質検査 ・上流、下流域小学生の交流促進(学校紹介、校歌の斉唱交換等) ・参加者に記念品として、源流餅を配布し、上流、下流の交流促進。	那賀川源流碑及び源流モニユメント周辺(那賀町木頭北川)	200人	平成29年5月7日(日)	
	⑤四万十川「水際清掃ミズスマシ作戦」 (継続)	四万十川流域住民ネットワーク	四万十川	河川の生命線とも考えられる「汀線」のゴミを回収することによって、環境の維持と共に景観を維持し、本「水際清掃ミズスマシ作戦」に地域の小学生と取り組むことによって四万十川の未来をも守る。	カヌーを使用して子供達と水際の清掃活動を行う。	四万十川	20人程度/回	平成28年度内(3回程度)	

平成28年度「四国の川を考える会」広報事業と助成事業(案) その3

(参考資料)

区分	イベント名	主催	河川名	目的	内容	開催場所	参加予定人数	開催日	
	⑥ 宮本武之輔を偲び顕彰する会 (継続)	宮本武之輔を偲び顕彰する会	—	民衆のために生きた土木技師宮本武之輔の偉業を多くの人に知らせ顕彰する。	<ul style="list-style-type: none"> ・例会等：日記等の研究により、功績や人物像を深く掘り下げる。 ・顕彰碑、銅像清掃活動：清掃活動により顕彰活動や地域のシンボルを保存する。 ・講演会：宮本武之輔の功績・人柄や新潟県燕市との交流について、これまでの活動を踏まえながら説明し、土木偉人の顕彰活動に理解を求めていく。 	松山市	例会等 会員15名 清掃活動 会員10名 講演会 100名	例会等 2ヵ月に1回 清掃活動 平成29年1月 講演会 平成28年11月	
	⑦ 蛍湖まつり (継続)	蛍湖まつり実行委員会	中筋川	蛍湖まつりは、中筋川ダム及びその周辺において行われるイベントで、河川流域の人々の交流の推進を図り地域の活性化に寄与することを目的に平成8年から開催しており、今年で21回目の開催となります。また、ダム見学会等のイベントを実施することにより、来場者に河川やダムに親しんでもらいながら、治水・利水・環境事業に対する理解を深めてもらうとともにダム事業の理解を得ることも目的としています。	ダム内部見学会、ダム事業等のパネル展示、地元小学生による中筋川ダムの絵画展とその表彰式、森林・植物・鳥類・魚等の環境関連のパネル展や自然観察会、警察や消防といった地元防災機関の防災イベント 他	中筋川ダム及び周辺	2,500～3,000人	平成28年10月頃	

平成28年度「四国の川を考える会」広報事業と助成事業(案) その4

(参考資料)

区分	イベント名	主催	河川名	目的	内容	開催場所	参加予定人数	開催日	
助成事業	⑧ 土器川生物公園魚類調査及び清掃 (継続)	土器川生物研究会	土器川	土器川の生態系保全及び管理のための基礎データ収集。	生物公園内及び土器川本川で魚類調査を行うと共に、生息域の植生調査及び水質の簡易調査を実施し、生息環境の保全に努めている。また、魚類調査時には、外来魚の駆除を行い生態系の保全に努めている。	土器川生物公園周辺	約40人/回	2回/年 9月～11月 3月	
	⑨ 朝霧ロードイルミネーション (新規)	朝霧ロードイルミネーション実行委員会	肱川	野村町内の団体等地元住民が集まった「朝霧ロードイルミネーション実行委員会」によるイルミネーションを開催する事により、ダムの役割への理解や地域振興及び水源地域の活性化、流域内外の交流と連携を図っていきます。	野村ダム公園、西予市乙亥会館・野村町内国道沿いへのイルミネーション設置・イルミネーション点灯式の開催	野村ダム	16,000人 (期間中)	平成28年11月11日～平成29年1月9日	
	⑩ 四国ブルーツアー (新規)	によど自然素材等活用研究会	仁淀川・吉野川	それぞれ日本一の清流に3年連続で輝いている仁淀川と吉野川。その源流地域である石鎚山系の豊かな自然があり、また、そこで繰り広げられている“さまざまな人間の営み”にこそ、その秘密があることを知ることで、河川の安全性や人々の日々の生活と川の関係性を改めて気付くきっかけをつくり、各自がこれからどう川と関わりまた保全していくのかを体験を通じて考えることを目的とする。	JR佐川駅に集合し小型バスで仁淀川の源流ご来光の滝を目指す。森林インストラクター北平地則夫氏による樹木や地質の話聞きながら、仁淀川・吉野川の原流域の自然について学ぶ。又によど自然素材等活用研究会の井上光夫より、源流域での暮らし川と人の関わりの歴史について話を聞く。仁淀川源流のご来光の滝を見た後、石鎚スカイライン～予佐越峠を経て寺川の吉野川源流点近くまでのバスで走り、吉野川源流点の下流附近を散策し、原流域の自然を体感する。その後地元本川の方との交流を図り、山での暮らしの実情を知る。又途中道沿いにある吉野川砂防工事の「長又の堰堤」や営林局の治山工事現場を見て工事の役割について理解してもらう。	仁淀川源流（ご来光の滝展望台）～吉野川源流（吉野川源流点下流）	25人	平成28年7月10日(日)	

平成28年度「四国の川を考える会」広報事業と助成事業(案) その5

(参考資料)

区分	イベント名	主催	河川名	目的	内容	開催場所	参加予定人数	開催日
	⑪ 防災・環境講座 (新規)	(一社) 肱川流域の環境と治水を考える住民ネットワーク	肱川	肱川流域の水質等の環境問題や浸水被害に度々悩まされていることに対し、魅力ある地域として肱川流域の更なる発展を目指すためには、住民一人ひとりが、水環境を把握し、また、地域の防災力向上を図っていく必要がある。このため、肱川流域住民の河川愛護や防災意識の高揚、流域の住民同士がお互いに理解し、教え合い、助け合うネットワーク強化を目指すとともに将来の肱川を担う子どもたちに継承していく。	夏休みに学校のプールを利用するか肱川の河川敷などを利用するなどして着衣泳や防災・環境に関することや防災・環境に関することとして肱川での洪水・環境などについての説明や防災グッズの実践などと共に肱川の水を使用したパックテストなどによる水質調査を体験してもらうとともに流域環境調査結果なども掲示して環境についても実態などを説明。	大洲市内学校プール又は肱川河川敷予定	80名	平成28年8月予定

(5) 会則の改正（案）

①「第2章 目的及び事業（目的）第2条」の改正内容

（現行）

第2条 本会は、四国における水害のない安全な国づくりの推進、及び水資源の有効利用の発展、並びに豊かで潤いのある河川環境の保全と創造に寄与することを目的とする。

（改正案）

第2条 本会は、**産学官が連携して**、四国における水害のない安全な国づくりの推進、及び水資源の有効利用の発展、並びに豊かで潤いのある河川環境の保全と創造に寄与することを目的とする。

②改正理由

「考える会」の存続に向けた活動を行うにあたって、どのような手段を使っていくか方針を決定し、「考える会」の位置付けを明確化するものとした。その結果、「考える会」の目的に、産学官の取り組みであることを位置付けることとした。

(6) 役員の変更 (案)

● 役員

役職	役員名		新
会長	鈴木 幸一		
副会長	三谷 健		
	武藤 裕則		
顧問	三井 宏		
	(一社)四国クワイエット協会 理事長 福田 昌史		
理事	井下 俊作		
	菊池 弘美		
	公文 洽夫		
	大谷 博信		
	(一社)四国クワイエット協会 副理事長 工藤 建夫		
	四国治水期成同盟連合会 幹事長 上田 信幸		
	四国電力(株)電力輸送本部 総括グループリーダー 山野上 守		○
	(財)河川情報センター 高松センター所長 大澤 敏之		

監 事	香川県河川協会 事務局 佐柳 和宏			
	電源開発(株)西日本支店 支店長代理 齊藤 文彦			○

● 運営幹事

運 営 幹 事 名		新
四国電力(株)電力輸送本部 総括グループリーダー 山野上 守		○
電源開発(株)西日本支店 支店長代理 齊藤 文彦		○
公文 洽夫		
(株)東京建設コンサルタント四国支社 支社長 五藤 隆彦		
香川県土木部 河川砂防課長 杉峯 正夫		
四国地方整備局河川部 河川情報管理官 鷺津 隆廣		

● 参 与

参 与 名		新
徳島県県土整備部 河川整備課長 久米 正浩		○
香川県土木部 河川砂防課長 杉峯 正夫		○
愛媛県土木部 河川課長 参川 好記		
高知県土木部 河川課長 岩崎 哲史		○
四国地方整備局河川部 河川情報管理官 鷺津 隆廣		

(7) その他

1) 課題への対応

(省略)

2) 会員の動向

○平成 27 年総会時点

○平成 28 年 7 月 15 日現在

一般会員 84 名

113 名

特別会員 74 名

77 名

計 158 名

190 名